

令和5年度 第1回 八千代市子ども・子育て会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年7月24日（月）午後2時30分～午後4時20分
- 2 場 所 八千代市役所 別館2階 第1会議室
- 3 議 題 (1) 委員長及び副委員長の選出について
(2) 八千代市子ども・子育て支援事業計画実績報告について
- 4 報 告 待機児童の現状について

5 出席者氏名

【委員（順不同・敬称略）】

別 府	さおり	委員（会長）
丸 山	純	委員（副会長）
井 上	早 苗	委員
田 中	麻美子	委員
中 川	裕 美	委員
中 村	唯	委員
廣 見	宣 夫	委員
藤 澤	彩	委員
櫻 井	陽 子	委員
河 島	和 城	委員
朝比奈	朋 子	委員
柿 沼	芳 枝	委員
安 藤	浩 子	委員
瀬 口	朗 子	委員

【事務局（組織順）】

服 部	友 則	市長
鈴 木	訓	子ども部 部長
島 津	俊 明	子ども部 次長
井 澤	延 浩	子育て支援課 副主幹
江波戸	雄一郎	子育て支援課 主査
鵜 澤	智恵子	子育て支援課 主事
平 野	龍 生	子育て支援課 主事
榎 本	智 子	子ども保育課 主査
下 野	広 樹	子ども保育課 主査
池 田	あゆみ	子ども福祉課 課長
松 本	亮 二	子ども相談センター 所長
中 村	あゆみ	母子保健課 副主幹

- 6 公開または非公開の別 公開

- 7 傍聴者／定員 1名／5名

8 会議録

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回八千代市子ども・子育て会議を開催いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中にもかかわらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めます子育て支援課の井澤と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは本日の会議の説明をさせていただきます。会議は公開で行います。

また、会議録作成のため録音させていただくことをご了承ください。なお、発言の際には、お手元のマイクのボタンを押して、赤いランプが点灯後にお話いただけますようお願いいたします。

次に、傍聴人の方にお知らせいたします。配布資料につきましては、会議終了後に回収させていただきます。配布資料の交付を希望される場合は、費用をご負担いただきますので、ご了承ください。

本日の出席数は14人でございます。会議の定足数に達しておりますことをご報告いたします。

それでは次第の1、委嘱状の交付を行いたいと思います。委嘱状の交付は市長が、皆様の前に参加しますので、恐れ入りますが、お名前を呼ばれた方はその場でご起立をお願いいたします。

【市長】

(各委員へ委嘱状を交付)

「委嘱状 井上 早苗様 八千代市子ども・子育て会議条例第3条第2項の規定により、八千代市子ども・子育て会議委員を委嘱します。期間は、令和5年5月1日から令和7年4月30日までとします。令和5年5月1日八千代市長服部友則」

(2人目以降、委員名のみ読み上げ)

【事務局】

以上で、委嘱状の交付を終了いたします。次に、服部市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】

どうも皆さんこんにちは。ただいま、お1人お1人に委嘱状を交付させていただきましたが、八千代市子ども・子育て会議の委員をお引き受けいただいて本当にありがとうございます。

国では、4月にこども家庭庁が発足し、国を挙げて、子ども施策に取り組んでいく方針が打ち出されておりますが、八千代市におきましても、昨年度からスタートした第5次総合計画において、子ども・子育て施策を市の重要施策として位置付けております。

しかしながら、昨年度の保育園の待機児童が119名ということで、全国ワースト2位になってしまったということもありまして、市では、昨年から今年にかけて、1・2歳児に特化した小規模保育事業所の整備などで対応を図っているところですが、今年の時点で、まだ45名の待機児童がいらっしゃいます。

人口が増えている地区では、待機児童の問題は、切っても切れない問題だとは思いますが、待機児童になっているご家庭、あるいはお子さんにとっては、深刻な事態だと思っておりますので、これからも八千代市として、市の内外の皆さんに認めてもらうためにも、この子育て支援の問題を重要課題として取り組んでいく必要があります。

委員の皆様は、子育て支援に特別な知見を持ち、また、関心をお持ちでございますので、皆様の知見を生かした忌憚のない意見をいただき、八千代市は、子ども・子育てに盛んなまちだなど、文字どおり、妊娠・出産・子育てと切れ目のない子育て支援をやる、その市の事業を実行していくために、皆様にかかる期待は大きいわけでございますので、是非ともよろしくお願い申し上げます。冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、委員のご紹介になります。議長席から見まして、時計回りでお呼びいたしますので、ご起立いただき、お一言ずつお願いいたします。

(委員自己紹介)

【事務局】

ありがとうございました。事務局は、お手元の座席表をもって紹介とさせていただきます。ここで市長は、公務の都合により退席させていただきたいと思えます。

【市長】

失礼させていただきますが、この後もよろしくをお願いいたします。

(市長退席)

【事務局】

続きまして、次第の4、「議題1 会長及び副会長の選出について」移らせていただきます。会長選出までの間、事務局の子ども部次長島津が仮議長を務めさせていただきます。

【仮議長】

失礼いたします。それでは、会長が選出されるまでの間、仮議長を務めさせていただきます子ども部次長の島津でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、初めに会長を選出いたします。規定では、会長は委員の互選により定めるとされており、どなたか立候補、またはご推薦いただける方いらっしゃいますでしょうか。

河島委員、お願いします。

【河島委員】

ご意見させていただきます。この計画については継続性があると思えます。前任期において会長を務めていらした、学識経験者の別府委員が適任かと思えますので、推薦させていただきます。以上です。

【仮議長】

はい。ただいま、別府委員の推薦がございましたが、皆さまはいかがでございましょうか。ご賛同いただける場合は、拍手をお願いいたします。

(拍手)

【仮議長】

ありがとうございます。別府委員、皆様からご同意がございましたが、お引き受けいただけますでしょうか。

【別府委員】

はい。精一杯務めさせていただきたいと思えますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【仮議長】

ありがとうございます。それでは、別府委員に会長をお願いいたしたいと思えます。会長が決定いたしましたので、別府委員に議長をお願いいたしたいと思えます。別府委員こちらにご移動をお願いできますでしょうか。

【会長】

はい。では、ここからは私が議長として議事を進行して参ります。

委員の皆様には、会議の進行に当たりまして、ご協力くださいますようどうぞよろしく願います。

それでは、副会長の選出に移ります。どなたか立候補、またはご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

(発言無し)

【会長】

私としましては、丸山委員にお願いしたいと思っておりますけれども、皆様いかがでしょうか。

ご賛同いただける場合は、拍手をお願いいたします。

(拍手)

【会長】

丸山委員、お願いできますでしょうか。

【丸山委員】

はい。では、謹んでお受けいたします。よろしく願います。

【会長】

はい。ありがとうございます。それでは、丸山委員に副会長をお願いしたいと思います。

それでは、次第の5、報告事項「待機児童の現状について」に移ります。事務局から報告をお願いいたします。

【事務局】

はい。それでは私から、「報告事項 待機児童の現状について」ご報告させていただきます。失礼ですが、着座での説明とさせていただきます。

お手元の資料5-1-2「報告事項 待機児童の現状について」の2ページをご覧ください。

本年4月の入所を希望し、入所申請書を提出した方から、入所できた方を単純に差し引いた、いわゆる入所待ち保留者は、290人でした。

地区別・年齢別は表のとおりでございますが、特に、地区別では、高津・緑が丘地区が、年齢別では、1歳児が多くなっております。

次に、3ページをご覧ください。

国基準待機児童数ですが、昨年は119人で、全国で2番目に多い結果でしたが、小規模保育事業所7施設や認可保育所1施設の新規整備などによりまして、本年は74人減少し、45人となりました。

地区別・年齢別は、表のとおりでございます。

この国基準の待機児童の考え方でございますが、初めて聞く方もいらっしゃると思いますので、ご説明させていただきます。

まず、2ページ目で説明させていただきました入所待ち保留者から、「預かり保育を実施している幼稚園に入園した方」、「企業主導型保育事業所に入園した方」、「仕事を探している、いわゆる求職中の方」、「育児休業を継続して取得する方」、「特定の施設のみ入所を希望した方」、「エリア内で空いている施設を案内したが、希望しなかった方」こちらの方を除くことで、国基準の待機児童となります。

本年では、45の方がこちらに該当いたしました。

次に、4ページをご覧ください。

市が整備する目標といたしまして、入所待ち（保留者）の方から、幼稚園や企業主導型保育事業所に入った方などを除いた139人分を実質的な待機児童と捉えまして、今年度、受け皿を整備いたします。

次に、5ページをご覧ください。

受け皿の整備に当たっては、第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画におきまして、「受け皿の確保に関する方針」が既に定められております。

受け皿の確保にあたっては、長期的視点に立ち、新たな施設整備は最小限に抑え、既存施設を最大限に活用することとしております。

これは、将来的には人口減少が見込まれている中で、施設整備を行うことで将来的に余剰となり、定員割れによって運営が難しくなることを考慮したものとなっております。

次に、6ページをご覧ください。

本市における乳幼児人口の推移でございます。

本年4月1日を基準日として、前2年の実績、及び2年後までの見込みの表でございます。年によりまして、多少の増減はございますが、ほぼ横ばいから減少傾向になっております。

次に、7ページをご覧ください。

乳幼児人口に対する保育所の申請者数の割合を見ますと、全ての年齢で上昇しており、特に1歳児のニーズが高まっております。

待機児童対策につきましては、8ページ以降に記載しておりますが、来年4月1日の入所間に合うよう、既存の認可保育所の定員増を伴う増築、小規模保育事業所4施設の新規整備により、126人分の受け皿の整備を行うほか、八千代台南保育園の低年齢児化に伴う2歳児18人の定員増、本年4月に開所した認可保育所の4歳児12人の定員増を行います。

これにより、本年4月1日時点と比較いたしまして、156人分の受け皿の拡充を図ります。以上で、報告事項の説明を終わります。

【会長】

ありがとうございました。ただいまの報告事項について、ご質問はございますか。

はい。丸山委員、お願いいたします。

【丸山委員】

はい。質問というよりは、意見としてとらえていただければと思うんですけども、すでに緑が丘地区の既存の保育施設は、かなりパンク状態で運営をしていると聞いております。

また、小規模等も増えてきましたので、いわゆる園庭がない保育施設も増えてきているということで、近隣の公園等に散歩に行くと、子どもたちがバッティングする可能性がある。実際にそういう日も出てきているということで、小さいながらも園庭がある保育施設は、なるべく外に行かないように、地域住民の方々にご負担かけないようにということで、運営を行っているという聞いております。

また、小規模保育施設が増えてきていますから、既存の認可施設が連携施設となっているところで、1施設で、5施設ぐらいの連携施設を担当しているというような状況も聞き及んでおります。

正解はどこにあるのか中々見つけにくいところですが、小規模施設だけでは、多分これが、次には3歳児問題、4歳児問題と当然発展していくと思いますので、何かしらの手を考えていただけたらなと、そのように考えております。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございました。

今ご意見ということでお話いただきましたけれども、何か事務局の方からはございますでしょうか。

【事務局】

貴重なご意見どうもありがとうございました。

やはり地区別で乳幼児人口の偏在化というのがございます。丸山委員がおっしゃったように、高津・緑が丘地区、とりわけ緑が丘西の乳幼児の人口が増えています。

ただし、市全体を考えますと、横ばいからやや微減傾向で、そこが施策を考えるうえで非常に難しい状況となっております。

市では、3歳児の人口を注視していきまして、3歳児以降は、保育園、認定こども園、それから幼稚園と、基本的には、ほぼ全ての児童がこの3つのどこかに通っているのが現状です。

新たに保育所を建設して、3歳児以降の枠を増やしますと、子どもの取合いになってしまって、どこかが定員割れになるという状況が想定されます。

市では、そこを考慮しまして、現在、送迎保育ステーション、国の事業で言いますとこども送迎センターという事業名でございますけれども、こちらを本年中に整備します。

小規模保育事業所を昨年7施設整備しましたが、こちらに通って卒園する児童が、高津・緑が丘地区から少し距離のある、例えば村上地区ですとか、勝田台地区や八千代台地区等にある、幼稚園に通う希望があれば、センターで一時的にお預かりさせていただいて、時間のミスマッチを解消するという事業を実施する予定でございます。

こちらにつきましては、令和6年4月1日開所予定として、現在、取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

【会長】

はい。ありがとうございました。では丸山委員よろしいでしょうか。

【丸山委員】

はい。ありがとうございました。

【会長】

はい。ありがとうございます。

それではその他、報告事項についてのご質問ありますでしょうか。

はい。櫻井委員、お願いいたします。

【櫻井委員】

はい。お伺いしたいことが一つあります。

先ほど定員割れというお話が出てきたかと思うのですが、おそらく私ども小規模保育園を含め、定員割れをしている施設というのは、今保育士の獲得が大変難しい中、企業努力をされて保育士を何とか確保し、受け皿を100%の予定で準備していると思うのですが、蓋を開けてみたら定員割れだったということは、抱えて雇った保育士をどうしようというような問題にも繋がってくるかと思えます。

質問というのはまず1点、定員割れというのは、それぞれの地区において、何施設ぐらい定員割れがあるのか伺いたいなということが一つ目の質問です。

二つ目に、先ほど送迎ステーションという素晴らしいアイデアを伺ったところですけれども、例えば先ほどのお話ですと、送迎ステーションは、3歳児以降の受け皿っていうような使い方のご説明を伺いましたが、これを見ますとやはり45人実際に待機の方がいらっしやって、自分がもしこの45人の1人だったらと思うと、やっぱりその45人の保護者の思い、その会社に調整をしなければいけない苦勞を、もたないないなとも思うのです。

片や、保育士がいて施設があって受入れ万全なのに入れない、悩んでいる親が45人いる。そのミスマッチを防ぐための、何かができないものかということで、思います。

私個人の意見といたしましては、一つに先ほどの送迎ステーションを使えるのであれば、3歳児以降の施設ということではなく、のみと限るのではなく、やっぱり全ての小規模保育園を含め、例えば遠方だから通えないなど様々ご事情があると思うので、税金を投じて行う事業だと思いますので、公平に、そういったものが使えるといいなというふうに個人的には一つ思いました。

三つ目に、お隣船橋市さんの取組を伺いますと、小規模保育園、大きな幼稚園さん保育園さん含めて、例えば引っ越してきた方がどこにどういう幼稚園があって、どこにどういう保育園があるかという情報がやっぱりなかなか。

もちろん市の方も、いろいろなことをやっていると思いますが、船橋市では、冊子を作っていて、その冊子を見せていただきましたが、ホームページまではいきませんが、どんな園なの

か、園のカラーがその冊子を見てわかるような、かなり内容の深いものが載っておりましたので、そういった冊子の発行をすることで、市の方のご負担も、口頭で「この園がありますよ」という説明の限界があると思います。

そういった冊子を通して園の良さを知ってもらうとか、今ある既存の施設の活用っていう中に、定員割れをしている保育園さんとの上手な連携っていうことを考えていただけたらいいのかなというふうに思います。

まずは、どれぐらいの割合でいるのか知りたいです。

【会長】

ありがとうございます。

では、まず1点目の定員割れしている施設の割合、あるいは施設数について、現在お分かりのところをお願いできればと思います。

【事務局】

はい。まず1点目の先ほど定員割れという話があったというところですが、私の発言につきましては、これから3歳児を受け入れる施設を作った場合、将来的に定員割れが想定されるということでございます。

実際に定員割れをしている施設ですけれども、昨年度整備し、本年4月1日にオープンしました小規模保育事業所が7施設ございます。

こちらにつきましては、1歳児が9人で、2歳児が10人という定員構成でございます。1歳児の9人は埋まっている状況ですが、小規模保育事業所は、2歳児までをお預かりする施設ということで、1年間だけ預けるといところが保護者にも不安というものがあったという要因が想定されまして、2歳児が、施設整備したほとんどの施設で、定員割れという状況でございます。

保育所は、例えば1歳児が9人ですと、2歳児はそれ以上の定員設定をしなければならないという決まりがございます。1歳児9人は、来年度2歳児の方に移行することから、今年度、1歳児だけを増やすということが難しいところでございます。

市では、新しい保育ステーションを今現状公募中でございます。こちらの方がはっきりし次第、情報発信をしっかりとしていかなければならないということをご認識しております。

1点目については、基本的に新規の小規模保育事業所7施設全てで2歳児に空きがあるということでございます。

一方で、既存の認可園は、もう空きなしという状況でございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

では1点目についてはよろしいでしょうか。

【櫻井委員】

ごめんなさい。既存の園も何園かはありますよね。

【事務局】

こちらの空きという考え方ですけれども、確かに施設としてのサイズ感は大きいけれども、施設側との調整ということで、利用定員で少なくなっている園は、何園かございます。

市といたしましても、新しい施設を建設するのではなく、できるだけ既存園の定員拡充をお願いしたいと常々思っているところでございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

では、2点目の送迎ステーション、それから保育所等の情報についてご意見いただきましたけれども、現在整備中ということで、今回いただいたご意見も可能な範囲で取り入れていただければと思います。

もし、関連して他のアイデアですとか、櫻井委員のご発言に付け加える形でも構いませんので、何かあれば出していただきまして、これからの整備の参考にしていただくという形はいかがかと思いますけれども、他の委員の方、何かございますでしょうか。

先ほどのご意見は、3歳児のみで限定するのではなく、全ての施設全ての年齢が遠くても利用可能というご意見であったかと思えます。それから、情報を保護者の方に伝える冊子の作成といったアイデアだったかと思えます。

はい。中村委員お願いします。

【中村委員】

すみません。3歳児の待機児童についてというところで、昨年度、長男が通わせていただいたのが小規模保育園だったんです。

今年度、大きい園に移動させてもらったんですが、同じ保育園の保護者の方で、どこの保育園も落ちてしまったという保護者の方もおられました。

特定園のみの入所を希望した者とか、育児休業を継続して取得する者などは、除かれた待機児童に入るとは思うんですけど、もし可能であれば、小規模保育園に在園している園児の次の預け入れ先を決めておいていただけると、2歳児からでも小規模保育園に安心して入れられるのではないかなというところが私の考えで、ちょっと自己紹介の時に申し遅れたのですが、私、浦安市の方で、保育士ではないのですが、保育園で働かせていただいてまして、浦安市では、小規模保育園とかファミリーサポートの先生がやっている預かり事業でも、そこに預けると、3歳児からはこの保育園に行きますよって、よっぽど嫌でなければそこに行きますという次の預け先が決まっているので、もしそういう預け先が決まっていれば嬉しいなと思えました。

以上です。

【会長】

はい。ご意見ありがとうございます。

では、続けて柿沼委員お願いいたします。

【柿沼委員】

失礼します。櫻井委員さんのおっしゃっていらしたその3歳児以降の子どもたちだけでなく、全年齢で、受け入れられたらいいのではないかということは、本当にその通りのご指摘だと思いますが、資料を拝見する限り、この送迎センターというのは、幼稚園のバスを利用するという形で運営されるという計画でしょうか。

そうしますと、3歳以上のお子さんでないと、ちょっと施設間の移動が難しいの难道うかと思ったりはします。

それから、今、中村委員さんのおっしゃったその2歳児の空きがあるということ、私も何とかそこを活用できないものかと。

その送迎センターにしても、新規の小規模保育事業所ですか。その2歳児の空きにしても、そこを活かしきれていないために問題が解決できない。一番痒いところに手が届かないという気がしますので、何とか方法がないの难道うかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【会長】

はい。ありがとうございます。

いくつか、ご意見ご質問が挙げられましたけれども、現在の範囲で回答していただけることを、事務局からお答えいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【事務局】

まず1点目、情報面につきまして、本年3月に市のホームページが更新となりました。

今までは、子育て支援情報をまとめているサイトというものがあったのですが、探しづらさもあり、年間アクセス数が6,000件に届かない程度でございました。

今回、市のホームページの更新に併せて、市のトップページの方に子育て支援まとめサイト

を作らせていただいて、年齢別や目的別等々に区分し、見やすくした結果、1か月で、昨年1年間のアクセス数を超えるようになってございます。

今までは、なかなか手が回らなかったのですが、これから先は、できる限り情報をわかりやすくお伝えできるよう、先ほど櫻井委員さんがおっしゃった、園ごとの取組につきましても研究し、内部で検討させていただきたいと思っております。

次に2点目、3歳児以降だけでなく全ての年齢というところでございますが、今回のステーションの制度設計につきましては、1・2歳児の保育定員を増やしたというところで、3歳児以降の保育を必要とする定員に対し、2歳児が上回ったことに対する施策でございます。

現状、全ての年齢を対象とするのは、なかなか難しいところですが、3歳児以降で預かりすることによって、既存の幼稚園等が、自分たちの保有されているバスを活用していただいて、ステーションまでお迎えに来ていただくという形での運用方法を考えているところでございます。

ただ、これは今年が初めての事業でございます。子育てに係るニーズというものも年々変化がございますし、運用以降、ご意見等々に柔軟に対応していかなければならないと認識しているところでございます。

次に、小規模保育事業所からその先の保育園が決められているというところですが、現状、八千代市の認可保育園の定員の設定状況でございますが、2歳から3歳に上がるころは、ほとんどが自園で保育されている方が、そのまま上がっている状況でございます。

園の中では、少し枠がある園もございまして、現状は、途中から入所というのが本当に難しい状況でございます。

また、他市の小規模保育事業所では、連携園として提携したところにそのまま行けるということも存じてございます。

八千代市といたしましても、現状のそういった待機児童問題解消いたしましたら、そういったことも視野に入れて検討を続けていきたいと考えております。

以上でございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

まだ課題があるという状況ですが、最初の自己紹介の中で藤澤委員がおっしゃっていた、保育園などに通っていない未就園児たちということも、ゆくゆくはターゲットになってくるので、今のお話を伺って、それより前に解決しなければならない問題というのが多々あると思っておりますけれども、長期的にはそこまで含めて、検討していただけるといいのかなというふうに思いました。

はい。藤澤委員お願いいたします。

【藤澤委員】

預かり保育のステーションのことで、5月の末に幼稚園対象に説明会がございました。

これから一般事業者を公募し、9施設開所ということで聞いているんですけども、7月の下旬まで事業者選定と思っておりますが、現在の進捗状況はいかがなものでしょうか。

私も櫻井委員と同じ意見をその時に申し上げたのですが、八千代市のやり方は、あくまで幼稚園の園バスを持っている施設のみが利用できるというような送迎ステーションというふうに聞いておりますので、やはり非常に何かロスがあるような、もう少しいろいろな活用の仕方、あるいは送迎の方法について、2号・3号の市内全域の保育施設は、待機児童を出ないぐらいの定員はあるけれども、その施設が遠いから利用できないという状況もあるかというふうに思いますので、併せて、お考えをお聞かせいただきたいというふうに思っています。

【会長】

はい。ありがとうございます。では事務局からお願いします。

【事務局】

はい。いわゆるこども送迎センターの現在の進捗状況でございますが、6月から公募を開始

いたしまして、7月の10日締切りで行っており、結果、2件の応募がございました。

市といたしましては、9施設を目標といたしましたことから、これから、二次公募の手続きを進めていきたいと考えております。

以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。

バスの利用の仕方等については、これから事業者、2次の募集も含めてになるかと思いますが、これから詰めていくという形になりますでしょうか。

【事務局】

まず、幼稚園バスを使うことにつきましては、当初の予定でございましたので、今年度は、幼稚園のバスを使うことで考えてございます。

市といたしましては、まず高津・緑が丘、特に緑が丘西地区にお住まいのお子様、特に2歳から3歳に上がった方たちの行き先の確保が大前提でございまして、長時間預かっていただける施設、幼稚園・認定こども園・保育園でも、そういった施設が不足しているということで、昭和50年代の大規模住宅団地には、まだ幼稚園が残っていきまして、同じ時間預けられる場合は、幼稚園を選択したいというニーズもありますことから、今回はそういったニーズに対応する施策を考えさせていただきました。

ニーズが変わった場合には、先ほども申しましたが、柔軟に対応していきたいというふうに考えてございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

おそらく運用してみてもという部分もあるかと思しますので、運用状況も踏まえ、お気づきの課題等がありましたら、次の機会にご意見をいただければと思います。

報告事項についてのご質問はよろしいでしょうか。

(了承)

それでは、次第の6、「議題2」に移らせていただきます。事務局から「第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画実績報告について」説明をお願いします。

【事務局】

それでは、「議題2 第2期八千代市子ども・子育て支援事業計画実績報告について」ご説明させていただきます。

失礼ですが、着座での説明とさせていただきます。

お手元に「令和5年度版の実績報告書」をご用意ください。

こちらの実績報告書は、計画に基づき、令和4年度に取り組んだ事業について、各事業の担当課が評価したものを取りまとめたものです。

本議題に際し、事前の実績報告書を送付し、ご意見をいただいておりますので、主に1ページの(2)「基本目標における各事業の実施状況」について、ご説明させていただきます。

それでは1ページ、(2)「基本目標における各事業の実施状況」をご覧ください。

全81事業のうち、「A：達成」と評価した事業が44事業、全体に占める割合は54.3%、次に、「B：達成できなかった部分があるが、達成できた部分の方が多い」と評価した事業が32事業、全体に占める割合は39.5%、次に、「C：達成できた部分があるが、達成できなかった部分の方が多い」と評価した事業が2事業、全体に占める割合は2.5%、次に、「D：未実施」と評価した事業が2事業、全体に占める割合は2.5%、「E：休止・廃止」と評価した事業が1事業、全体に占める割合は1.2%となりました。

昨年度と比較いたしますと、Aは4事業の増、Bは増減なし、Cは3事業の減、Dは1事業の減となり、全体の評価としては、C・Dと評価した事業は減少し、A評価の事業が増加いた

しました。

個別評価の実施状況につきましては、令和3年度よりも実績を伸ばした主な事業について、ご説明いたします。

それでは、29ページ目をご覧ください。

事業名「妊娠期から子育て期の交流の機会の充実」でございます。子ども保育課及び母子保健課が所管し、それぞれで評価を行っており、ともに昨年度のB評価からA評価となりました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、事業の実施が困難な状況でしたが、令和4年度は、感染症の予防対策を講じ、妊娠期の教室として「プレママ教室」や「パパとママの子育て教室」、また、「4か月児赤ちゃん広場」を実施しました。

なお、離乳食に関する相談が多く寄せられたことを受け、令和4年度から、新たに離乳食教室を実施しました。

これにより、令和4年度は、交流の機会を設けることができましたので、A評価となっております。

令和4年度実績の傾向につきましては、新型コロナウイルス感染症に伴う、利用自粛等が一部緩和され、各事業が再開いたしました。これにより、令和3年度と比較して、令和4年度は全体的な評価が伸びております。

以上で議題2の説明を終わります。

【会長】

ありがとうございました。

事務局から事前にお知らせしておりますが、実績報告につきましては、委員の中で話し合い、その結果を市に提案する形で進めたいと思います。事務局への質問は、意見を述べる上で必要となる事項を確認する場合にお願いいたします。

それでは、ただいま事務局から説明があった事項について、ご意見または事務局への確認がございましたら挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

特に、八千代市で子育て経験のある市民委員の皆様いかがでしょうか。何かございますか。

井上委員、お願いいたします。

【井上委員】

質問や意見は、全体の81事業に対してということではよろしいですか。

【会長】

そうですね。はい。

【井上委員】

今、評価が上がった事業については説明いただきましたが、逆にこうやってみただけでも上手いかなかった事業について、代表的なものを教えていただければと思いますがよろしいでしょうか。

【会長】

こちらについては事務局の方からご回答いただけますか。

【事務局】

はい。思うように事業が進まなかったところを一つご説明いたします。

ページ数で言いますと23ページでございます。

放課後子ども教室の整備という事業名ですが、今現在、9校の小学校で実施しているのですが、実はもっと広げたいということで、小学校との場所の確保についての協議は進捗していたところですが、子どもが活動している時に安全を見守る大人の方、こちらをハローワークなどで募集をかけましたが、必要な人数が集まらなかった結果、9校より増やすことができなかったということで、評価はCとなりました。

場所の方は学校の方と調整がついておりますので、スタッフを引き続き集めているところで。安全管理員の人数が集まり次第、順次、学校の数を広げていきたいと考えています。

【井上委員】

ありがとうございます。

先ほどの前段の話は保育園の話が多かったのですが、今後、保育園の子どもたちが小学校に入る数が増えていくことが想定されると思います。

勤めながら子育てをする中で、学校に入ってから保護者としての立場、結構大変だった部分があります。学童保育所に入れないことによって、保育園時代は仕事をそのまま勤められたけれども、お仕事を辞めたお母さんたちもいらっしゃいます。先を見据えて活動していただければ助かるかなと思います。

また、世の中的にも人件費等が上がってきており、今までの給与の基準ですとなかなか集まらないところもあると思いますので、予算もあるとは思いますが、検討いただければと思います。

【事務局】

今の私の説明が不足していて申し訳ありません。

放課後子ども教室というのは、保護者の方が就労している・していないにかかわらず、放課後、そのまま学校の余裕教室などで自由に遊び、人生ゲームや自由に校庭でかけっこ、鬼ごっこをしているような事業でございます。

もう一つ、上手く評価できなかったという事業が、同じ23ページの下の段、学童保育につきましても評価をCとしております。

学童保育についても、委員のおっしゃられたとおり、保育園に通っていた方は、小学校に通いながらも、同じ就労を続けていらっしゃる方が大半でございます。

ですので、学童保育所に入れないというのは、重大な課題だと考えております。

学童保育所の方も、子どもの数は横ばいか微減にもかかわらず、希望される方がどんどん増えてきているという状況でございます。

現在、新木戸小学校の敷地の中に新しく学童保育専用の建物を造ったり、それから他の小学校でも、特に待機が多い小学校では、学校との協議の中で新たな教室をお借りしたり、敷地に新しく建物を造ったりということで、100名を超える定員を毎年増やしています。

しかし、それを超える申請があり、それでも何とか定員を増やしていこうと努めていますが、希望される方が上回っているという状況なので、こちらの方も評価をCとさせていただきました。

なお、夏休みだけでも入れないかという保護者の意見もございますので、学校から夏に使える教室の提案をいただいた場合は、夏だけ学童の定員を増やすといったような対応も図っているところでございます。

学童保育所は、保育園のように、保護者の方が就労しているという方のみが入る施設でございます。

放課後子ども教室は、就労している・していないにかかわらず、自由に活動できる場所でございます。その違いがございます。

以上です。

【井上委員】

はい。ありがとうございます。そこは理解しました。

やはり今、共働き世帯が増えていきますので、保育園、幼稚園から小学校に入った時に、パートで働こうという方もいらっしゃると思います。希望者が増えてきていると思いますので、ご検討いただければと思います。

ありがとうございます。

【会長】

はい。ありがとうございます。

それでは、他に何かございますでしょうか。
では、田中委員お願いいたします。

【田中委員】

すいません。ピンポイントになっちゃうのですが、今の23ページで、子どもの放課後の遊び場がすごく減ってきていて、住宅開発とか八千代市はかなり進んでいるのですけれども、公園の場所の取合いが多いと思います。

お友達、ママ友に千葉市の方がいて、千葉市の小学校は全部と聞いたのですけれども、こういった子ども教室みたいなものやっていて、誰か雇ってとかそういうことではなく、PTAの活動の一つとして、お母さんが、どれか役員って1度はやらなければいけないと思うのですが、1名につき2年間やるらしいのですが、チーバくんを呼んで踊ろうとか、それを委員さんが、今回はこれ、次はプールを出して遊ぼう、みたいなことを小学校でやられているってことを聞きました。今日、この場に瀬口校長先生や、先ほどすごく感動したのですけれども、安藤先生みたいに助けてくださる方とかがいるので、場所ということでも、公民館を利用しての保育や人員集めをできないのか、ご意見として聞いていただければと思います。

以上です。

【会長】

ありがとうございます。

では、子どもの放課後の遊び場ですとか、それに関する人員について、委員の皆様からそれぞれの立場で、ご意見とかアドバイス、その他、現状の説明等でも構いませんので、何かありましたら出していただければと思います、いかがでしょうか。

安藤委員、お願いいたします。

【安藤委員】

主任児童委員として、少し大変なお子さんもいるのですが、夏休み中、1人でお昼を食べているお子さんもいるということで、やっぱりどこかに子どもの居場所を、市が優先的に作ってくれれば一番いいのですけれども、地域では、おせっかいおばちゃん絶対いますよね。その方たちが手を挙げてくださって、子どもの居場所を作っているような状態なのです。

ただ、本当にその世代の方たちが高齢化してしまっていて、なかなか引き継ぐ世代の方たちが育っていないのもあって、今、子育てしているママたちが、もう少し力を貸してくれたら、PTAの方とか、実際に子育てしている方達がまとまってくれたら、一番素敵な居場所ができるのかなというのを感じています。

本当に1人の力ではとても無理ですけれども、1人、2人、3人と、目標に向かってやってくださる方がいたらいいのではないかなと思います。行政でもいいので、誰かが手を挙げてくれて、やりますと言ってくれたら、きっとついていく方もいらっしゃるかなと思います。

私も、そういう活動を少しずつしているのですけれども、他の方もしてくださったら、ママたちもすごく安心してお仕事をできるのかなと思います。

以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。

では、他にはいかがでしょう。今のテーマに関連して、何かございますでしょうか。

櫻井委員、お願いいたします。

【櫻井委員】

今お話を伺いまして、確かに地域には、子どものことを本当に愛おしい目で見られる優しい眼差しを持ったご年配の方々が確かにたくさんいらっしゃって、私ども小規模園でも、散歩に行くと本当に目を細めて子どもたちに関わってくれる地域の方々がいらっしゃるなというふうに思います。

一方で、保護者が、そういった役員の、千葉市のような取組ができれば素晴らしいなと思い

ますが、私も働く親として、お仕事がきっちり詰まっている中に、どれだけ子どものために真剣に、そして安全にそういった環境が整備できるか。どんなふうに千葉市がやってらっしゃるのかということを考えて聞いておりました。

何かアイデアがあるとすれば、やはりこういったものには予算が必要なのではないかなと思います。地域の方々の気持ちがあっても、例えば予算がないからできないということもおありなんじゃないかなと。

その民の力じゃないですけども、気持ちのある方をまとめ上げることを、例えば、市の力を借りて公募するとか、予算は付きますよということであれば、やってくださるNPO法人やサークル運営されているような方とか、そういった場所はおありのようですので、その問題は保育所整備と違って、場所の問題はクリアしているようなので、そういった人間を取りまとめる旗振り役を行政がやられて、そこに予算がついたら、何か八千代市として素敵な企画ができたらいかなと思いました。

【会長】

はい。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

ないようでしたら、今の放課後の遊び場とか居場所等について、人手不足という問題は、もう避けられないところですけども、気持ちがある方とかもいらっしゃるので、その人をつなぐ方、そちらをこれから力を入れていただきたいということを、市の方に提案という形にさせていただければと思います。

はい。櫻井委員が挙手されておりましたのでお願いいたします。

【櫻井委員】

少し話が変わりますが、43ページの外国籍の子どもや親への支援ということで、すごくいろんなことをやっていらして、A評価ということなのですが、委員の方々にお伺いしたいのが、私の立場で聞こえてくる声というのは、外国籍の方が困ってらっしゃるようなお話で、例えばズボンを持ってきてくださいって言ったのだけれども、敬語が上手に伝わらなくて、保育園とやりとりするのが難しいって困ってらっしゃる声です。

結論を申しますと、ここの評価で書いてある多文化交流センターに行ける方というのは、その支援を受けていらっしゃると思うのですが、保育の現場にいる手応えといたしましては、周りの先生方のお話を見聞きする限りは、まだまだ支援を必要としていらっしゃる外国籍の方が多いいのではないかなと。

例として、実際にあった他園の状況でお話をさせていただきますが、小学校に通われている方が虐待の疑いがあり、話を聞くと、最終的には言葉のコミュニケーションエラーでした。

先生が、丁寧な言葉で敬語を交えて伝えても、それが保護者に伝わらない。ということで誤解されてしまったと。

そこで、その保育所の先生が、先ほどのズボンの話であれば、「ズボン1持ってくる。」というような、日本語としてはおかしいのでしょうかけれども、わかりやすい言葉で端的に伝えることでコミュニケーションが取れて、結果的に、子どもの最善の利益に繋がっていったということで伺ったお話もあります。

この多文化交流センターに来られる方はいいと思うのですが、一方で、繰り返しになりますが、ご自身でお金を払って通訳を連れて園に来られる方ですとか、また、一方で、何を言っているのかわからないとか、文化の違いでそれはよくわからないとかなってしまった時に、私も小規模保育園は、職員の人数が大規模園と違って、限られた人数の中でやっておりますので、その外国籍の方への対応ということで、本来であれば、子どもの最善の利益のために、環境要因としているべき一保育士が、そういった保護者対応で、日本人であれば1秒話せば伝わるお話が伝わらない。それは仕方がないと思うのです。丁寧に説明をしなければいけないと思いますので、そういったことも実情としてはあるというふうに私は見聞きしています。

実際に八千代市では、外国の方が増えているというふうに聞いておりますので、意見させていただきました。

【会長】

はい。ありがとうございます。

それでは外国籍の子ども、あるいは保護者への支援ということで、他の委員の皆様、何か情報をお持ちであったり、あるいは何かご意見等あればお願いしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

はい。丸山委員お願いいたします。

【丸山委員】

はい。私の施設にも、ほぼ日本語を話すことができない保護者の方がいらっしゃいます。

ですので、いわゆる自動翻訳機みたいなのを使ったり、あとは連絡事項の文章を読めないのです。そこは連絡帳アプリが、確か160言語ぐらい対応しているので、それで文字を読んでいただくとか、機械に頼るしかないという感じがしております。

ただ、それでも限界はあるなというところはありますね。特に言語面だけでなく、文化面で違いがあるところは多々生じるので、2週間ぐらい平気で休むとか、日本人だったら2週間連続して休めないみたいなどころがありますけれども、2週間音信不通になったりとか、そういうのがありますので、より丁寧な関わりというのが必要かなとは思っています。

はい。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

はい。田中委員お願いいたします。

【田中委員】

少しずれてしまうかもしれないのですがけれども、私5年ぐらい前に、八千代市は結構工場が多いので、外国籍のお子さんとか親御さん多いなと思っていて、語学ボランティアをしたくて思い立ったことがあって、八千代市のホームページとかを結構調べて、実際に会長に電話とかもしたのですが、八千代市って変わっていて、ボランティアをやりたいという気持ちで、何か手助けになればと思ったのですが、お金を払って活動をするのです。

すごく敷居が高くて、何かこう、できないなっていうふうに思ってしまったことがあって、多分、いろいろな市民の方がいれば、日本人でもポルトガル語ができる方もいますし、そういうことができる看護師さんを雇われている病院もありますし、今後も少し敷居を低くボランティアをできるような枠組みにして欲しいというのは、外国籍の方だけではなくて、「PTAは仕事しているから嫌だ」ではなくて、小学校でうちの子少しくまできていないみたいだから、ボランティアで見守りをしながら子どもの様子を見たいなという方も絶対にいるので、働く女性が多いから応募しても無理ではなく、もう少し敷居を下げて声をかけてもらえればなと思いました。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。では、他にはいかがですか。

朝比奈委員お願いいたします。

【朝比奈委員】

今の話に繋がってくるのですがけれども、これがどのように事業と絡んでくるのかというところは、まだイメージができないのですが、例えば、外国籍のお子さんというところに限って考えても、おそらく保育所などでは、先ほど、アプリという話もありましたけれども、それだけではなくて、その外国籍の方たちのネットワークがあると思うので、つまり、その保護者の方に頼ることもやっていらっしゃると思うのです。

先ほど、保護者の力をとというのは、その保護者同士の緩い繋がりというのをもっと意識的に作っていくと言いますか、形というところまでいくかどうかはわかりませんが、そういうやり方だと、そのメンバー構成によっては、廃れていったりとか、長い目で見るとそういうこともあると思います。

行政でそういう仕掛けを作っていくというだけではなく、保護者同士の自然発生的なネットワークを繋げていくというような仕掛けを誰がするのだろうという話もあります。

そういう視点を、拠点となる保育所、幼稚園、子どもの集まる放課後子ども教室というようなところのスタッフがもっていると少し変わっていくかなあという印象を受けました。

私も、個人的な話で恐縮ですが、自宅が松戸市でございまして、松戸も比較的外国籍の方が多く、私の娘は大きくなっていますけれども、小学校の保護者会の時に、担任の先生から「本学はインターナショナルスクールだと思ってください」と言われました。

現に、クラスの3分の1は外国にルーツのある子がいるという、必ずしも日本語が話せないとかそういうことではないですけれども、日本語が理解できなくて苦労する時には、担任の先生が、「この言語を話せる。若しくは、英語が話せてお手伝いしてくださる方いませんか」と呼びかけをしていました。

私のイメージとしては、日常的に緩やかに支えられるような形ができれば良いかなというふうに思いました。

【会長】

はい。ありがとうございます。

外国籍の子どもと保護者への支援ということで、いろいろご意見いただきましたけれども、事業評価という点では、情報の発信や相談の実施などで、おそらくA評価となっていると思いますが、ここに含まれていない方が中心になると思いますが、心配な親御さん、あるいはお子さんがいて、まだまだフォローが必要ということかと思えます。

ボランティアの間口を広げる、あとは日常的な支援、また、支援とまではいかないのかもしれませんが、人との繋がりを作っていくなど、さりげない支援というような形にしていって、その働きかけをするということでしょうか。

これから必要になってくると思いますので、事業評価ですと、シティプロモーション課と指導課が担当になっていますが、今の話を何課にというのは、ご検討いただく部分になるかと思えます。

外国籍のお子さん、それから保護者への支援をより充実させていただきたいということで、こちらも意見として提案させていただければと思います。

では、そろそろ時間も迫って参りましたが、その他、事業評価について、何かございますでしょうか。

中川委員お願いいたします。

【中川委員】

はい。先ほど事務局からご報告いただいた、29ページの子どもの保育課と母子保健課のA評価のところですが、私も令和3年に出産してお世話になりました。

令和3年はB評価でしたが、まさに、そういった教室が全部閉鎖になってしまうというようなタイミングでしたので、私としても、孤立してしまったところがありました。

ただ、お電話をいただいたり、教室に参加できなくても、沐浴の体験を自宅まで来ていただいたりとか、問い合わせると、応援してくださるということがありましたので、大変助かりました。

ただ、そういったことをやっているということが、他の方には伝わっていないと思いますので、活動をされているのであれば、もう少しわかりやすくお話していただくと、より良いかなと思いました。

私も孤立していたところで、お電話いただきましたので、泣きながらお話を聞いていただいたことがあったので、教室がないときはもう少し電話の回数を増やしたり、今後、またコロナのようなことが起こる可能性は考えられますので、そういった時の対策のためにも、どうしても他に相談できる場所がない方も多いと思いますので、お考えいただくとありがたいなと思いました。

聞いていただくこともありがたいのですが、こういったものがあるので利用していただきというサポートの提案や場所を教えてくださいとありがたいと思いました。

先ほど櫻井委員からも話があった保育園を探す時ですけれども、お腹が大きい時から保育園

を探し始めてたくさん回らせていただいて、自分の足で行かないと情報を集められないことが多いです。

お電話で市に問い合わせをしても、やはり口頭でこの園はどうか、この園はどうかと1件1件聞いて、労力がお互いにかかると思いますので、冊子などがあるとありがたいと思います。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。

主には情報発信等になるかと思います。

では、井上委員お願いいたします。

【井上委員】

はい。情報発信という点で、先ほどの多文化交流センターの件や中川委員がお話しされた件もそうですけれども、上手く伝わるかというところが重要だと思います。先ほどの八千代市のホームページで、年間6,000件だったのが、月でそのぐらいのアクセス数へ増加したとのことで、すごく効果があったのだと思っております。

やはり、見る人は見ていると思いますので、冊子を作って配るだけでなく、ホームページを公開することで、情報を取りに行ける状態になります。

多文化交流センターを知っていて使わないのか、知らないのかというところがあると思うのですが、外国籍の方が知らないならばまず知らせ、後は、ホームページ見てくださいと促すことによって、受ける側の職員もメリットがあると思います。

ITをうまく使いこなして、SNSの発信などの情報発信ができるといいのかなと思いました。

【会長】

はい。ありがとうございます。

これに関しては、他にはいかがでしょうか。

朝比奈委員お願いいたします。

【朝比奈委員】

どなたか知っている方に教えていただきたいのですが、引っ越してきた時に、家族構成は、住民票を受け付けるところでは分かると思いますので、例えば、その時に一緒に冊子がずっと出てきたらいいですね。

また、八千代にお住まいで、新たに出産した時には、必ず全戸に保健師が来てくださいますよね。

会えない場合もあると思いますが、冊子がずっと出てくるというイメージですかね。

今、やっているのでしょうか。やっても、その情報が伝わらないということだとすると、新たなことを考えなくてはいけないのかもしれないかもしれません。

現状を教えていただきたいと思います。

【会長】

はい。お願いいたします。

【丸山委員】

実際に冊子があって、多分、全数配布しているのかなと思います。そこには、各園の独自でやっている施設開放も含めて記載されているので、それを見ていただければ、現時点での最新の情報が出ているのかなと思います。

あと、外国籍の方に絞って言うと、困り感の目線が合っていないというのを感じます。私たちは、「これはすごい大切な問題」と思っているけど、当事者はそれほど困り感を感じていなかったりすると、それが直接的な支援に結びつかなかったとか、当事者が求めてないのに、ずかずか入ってくわけにはいかないの、困り感の目線が合っていないというのは、課題だと思います。

【朝比奈委員】

保育所のことで言えば、必要な時に欲しい情報がそこでは得られない。そういう問題ですと、今おっしゃったように、発信側と欲しい側の情報がマッチしてないところが課題ですか。

【丸山委員】

もしかしたら何かミスマッチがあるのかもしれないですね。

【櫻井委員】

ちなみに、他市で申し上げると、船橋市のA4サイズの冊子は、園の情報量がとても多いです。

【藤澤委員】

船橋の保育協議会みたいなところを作っているのですか、市が作っているのですか。

【櫻井委員】

どこが作っているかはわかりません。ただ、市役所から全ての保育園に対して、A4の紙1枚に、どういう写真や内容を載せますかという話があります。

【藤澤委員】

それは、幼稚園もでしょうか。

【櫻井委員】

はい。幼稚園もです。

【藤澤委員】

一緒の冊子になっているのですか。

【櫻井委員】

はい、一緒の冊子です。八千代市の冊子は、どの園があるか分かりますが、その保育園がどのような園かということが分からないので、園のカラーといいたいでしょうか、それがもう少しあると、引っ越してこられる方とか新しく情報取る方にはいいのかなと思います。

ちなみに、この冊子を配布するタイミングというのは、私も把握はしてないですけども、引っ越ししてきたら配布されるということでしょうか。

【中村委員】

私、息子が2人いて、八千代市に引っ越してきてから数年経って2人とも生まれましたが、生まれて出生届を出したタイミングで冊子をいただきました。

私の場合は、すぐに復職を考えていなかったもので、その保育園がバーッと載っていても、すぐ目を通すわけでもなく、こういう保育園があるということは載っているのですが、その保育園の近くに何があつてとか、どういうカラーでというのは、すごく薄くて、各保育園のホームページをまず見に行つて、それでもわからなければ、各保育園に見学しに行きました。

そのハンドブックだけでは、賄えないなという感じでとらえました。

【田中委員】

私の時代と違うと思いますが、復職する段階で、子ども保育課に一覧を別でもらいました。

一覧は、保育園の位置がわかって、園庭開放やカフェなど、子どもの交流の場になっているところがあるのでそこを利用したり、あとは、妊娠していた時、平日に母子手帳をもらいに行けなかったもので、それも保育園で受け付けてもらえました。

私は、事前に分かりやすかったという印象です。

【会長】

はい。おそらく情報のとり方というか、やはり若い方でしたら、SNSですぐに入ってくる情報の方がわかりやすいのかもしれないですし、じっくり見たいという方は、冊子の方が良いのかもしれないですし、本当に細かく知りたいという方は、問い合わせが良いという部分もあるのかなとは思いますが。

多様な情報取得の方法とか外国籍の方も含めれば、理解の面も含め、かなり多様になってきているので、できるだけ細やかに行き届く情報発信が必要ということだと思います。

ただし、ホームページリニューアルの結果、アクセス数が増えたというのはすごく大きな進歩だと思いますので、引き続きニーズを吸い上げて、修正できる部分は修正していくということをお願いいたします。

はい。安藤委員お願いします。

【安藤委員】

今日ここに来る前の保育園を出るとき、地域子育て支援センターの遊びと交流の広場に、ご夫婦で来ていた若い方がいらっしゃいましたし、国では育休をすごく進めていて、女性だけが子育てする時代ではなくなったと思います。

赤ちゃんを連れてイオンとかで1人でお買い物しているパパも見られるようになり、パパ向けの情報ツールがあってもいいのかなと思うので、パパたちが集まれる場所とかの情報をホームページで発信していただけたらなと思います。

【会長】

ありがとうございます。

では、情報発信の仕方について、市では更新していくと思いますが、アップデートするには今のようなご意見が必要で、先ほどITの話もありましたが、具体的にどうしたら良いのかというところもアイデア等があれば出していただければと思います。

こちらも含めて、市への提案ということにさせていただければと思います。

その他よろしいでしょうか。

では。事業評価につきましては、事業の達成度それから実施内容に照らして適切に評価されていると思われるので、各事業評価どおりとしてよろしいでしょうか。

(了承)

はい。ありがとうございます。

では、次第の7に移らせていただきます。

その他ですが、事務局から何か連絡事項等がありますでしょうか。

【事務局】

はい。次回の会議は12月頃に開催する予定でございます。

日程につきましては、後日、改めて調整させていただきます。以上でございます。

【会長】

次の会議は12月頃の予定とのことです。

以上で、本日の会議を終了させていただきます。

議事進行にご協力いただきましてありがとうございます。